

民家・つつましき風情をたたえて

1999年7月3日[土]－9月26日[日]

開館時間=午前10時－午後6時(入館は5時30分まで) 休館日=毎週月曜日(ただし祝日と重なった場合は翌日)

観覧料=一般200円(160円) 大高生150円(120円) 中小生100円(80円) 65歳以上及び障害者の方100円(80円) ()内は20名以上の団体料金



妙高高原(新潟県中頸城郡妙高高原町) 制作年代不詳

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581 FAX 03-5450-9583

民家・つつましき風情をたたえて

向井潤吉アトリエ館は、向井潤吉先生とご家族が、長年にわたって住まわれたアトリエを兼ねた建築が、趣を損ねることなく改装され、瀟洒な美術館として生まれ変わったものです。そして、平成5年の夏に開館して以来、多くの来館者を迎えてまいりました。

明治34年、京都に生まれられた向井先生は、関西美術院で勉強を重ねられた後、上京されています。戦前は二科会で発表を重ねたほか、昭和2年から5年には、ヨーロッパにわたり、ルーヴル美術館で数多くの模写を手がけ、西洋美術の本質に正面から向き合われ、またドイツ、オランダ、ベルギーなどにも旅行し、各地の美術館を巡られました。その中で先生は、数多くの作品を通じて、写実表現の様々な有り様に触れ、そして油絵具という材料にかかわる研究も、このときに深められたようです。

戦中には、陸軍の報道班員としてフィリピン、ビルマなど、いくつもの戦地において旺盛な制作活動をおこないましたが、そうした最中に、先生は戦禍に喘ぐ人々の呻吟にもまた、じかに接することになりました。

民家という独特のモチーフを見出すことになるのは、戦後も間もない昭和20年の秋のことでした。その後、平成7年に他界されるまで、黙々として絵筆とともに自然と風土に育まれてきた民家のありのままの姿を、カンヴァスに描きとめる旅を重ねてこられたのです。思わぬ速度で進展した戦後の高度経済成長の波の中で、人々の生活は大きく様変わりし、草屋根の民家は姿を消し、そして自然の様子も変わっていききました。

今に生きる私たちに、向井先生が描き遺した民家作品の数々は、いったい何を語りかけてくれるのでしょうか。それは、民家が自然と風土の中に溶け込み、土地に馴染み、人々の生活のより所になっていたという、歴史の重なりのある貴さなのかもしれません。そして、私たちは民家が放つ光彩の中に、優しいぬくもりのある風情を感じ取り、そこにつつましくも凛々しい、日本的な気品を見出しているのではないのでしょうか。

このたびの展覧会では、油彩、素描作品の数々を通じ、向井先生の描いた民家作品の魅力をご紹介します。



不詳(風景未完) 年代不詳



奥多摩の秋 年代不詳



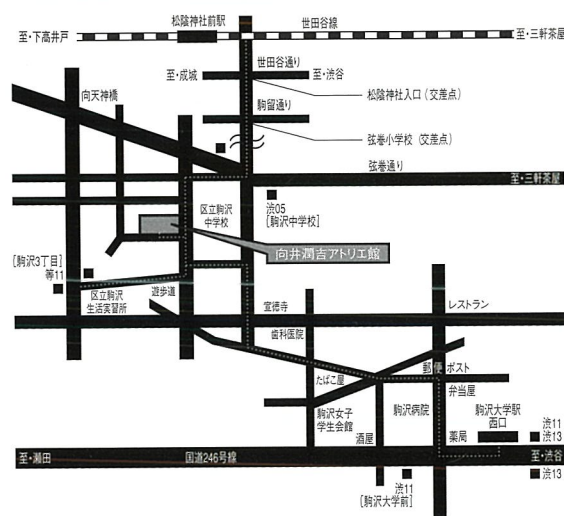
早春の水路 1982年



梅雨晴れの濱通り 年代不詳



不詳(農村) 1954年



交通機関

東急新玉川線 駒沢大学駅西口 下車徒歩10分
 東急世田谷線 松陰神社前駅 下車徒歩17分
 東急バス(渋05) 渋谷～弦巻営業所 駒沢中学校下車 徒歩3分
 東急バス(等11) 祖師谷折返所～等々力 駒沢3丁目下車 徒歩3分
 東急バス(渋11) 渋谷～田園調布 駒沢大学駅前下車 徒歩10分
 東急バス(渋13) 渋谷～砧本村 駒沢大学駅前下車 徒歩10分

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581 FAX 03-5450-9583